



橘守部家集 全

特別
イ 4
3163
44



貴

14

3163

44



橘宇部家集

春歌

五十一

橘宇部家集

○うねのちよこみゆ。おもひはる。あまてしねや。さくらば。さくらば。
○りねのちよこみゆ。おもひはる。あまてしねや。さくらば。さくらば。
○さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。

○さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。
社名

○さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。さくらば。
之日

あはれなる心は...
あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心

あはれなる心は...
あはれなる心は...

あはれなる心

一尋りて来ぬはしむるは好むも一を去れどもなきは暗の月哉
西を去る月

空よりわらわぬ糸縁の月ありあはれ松を
去る月

梅玉のほろ松のしらとては月とあはれにほろあや
禁中去る月

白く夜は月の光もあはれ松をけりぬ月影のそ
去る月

ふらふらとちかちかしたる月影もほろほろとけりぬ月影のそ
去る月

●袖のほろほろとあはれ松をけりぬ月影のそ
山籠る月

●空より来ぬはしむるは好むも一を去れどもなきは暗の月哉

海屋

●空より来ぬはしむるは好むも一を去れどもなきは暗の月哉

道に海

●空より来ぬはしむるは好むも一を去れどもなきは暗の月哉

海屋

●空より来ぬはしむるは好むも一を去れどもなきは暗の月哉

海屋

●空より来ぬはしむるは好むも一を去れどもなきは暗の月哉

海屋

花さくころもさくころ

いづれもさくころもさくころ。梅さくころもさくころ。

あまふ夏の梅の香をばきつる。梅さくころもさくころ。

久かきの梅の上の梅さくころもさくころ。梅さくころもさくころ。

依玉 歌風

いさふふあつた風のたふぬ社に梅さくころもさくころ。

折玉

梅さくころもさくころ。梅さくころもさくころ。

玉中 恩

いづれもさくころもさくころ。梅さくころもさくころ。

玉 玉中

さくころもさくころ。梅さくころもさくころ。

山花

お梅さくころの梅のさくころもさくころ。梅さくころもさくころ。

山 歌風

いづれもさくころもさくころ。梅さくころもさくころ。

山 玉中

いさふふあつた風のたふぬ社に梅さくころもさくころ。

昔 花

いづれもさくころもさくころ。梅さくころもさくころ。

四 歌風

いさふふあつた風のたふぬ社に梅さくころもさくころ。

玉 玉中

いづれもさくころもさくころ。梅さくころもさくころ。

ひさしに花をて せんせん花のいかに 花のいかに

曲らうらや

引しに花のいかに 花のいかに 花のいかに

蕨

あつたし 花のいかに 花のいかに 花のいかに

花のいかに

花のいかに 花のいかに 花のいかに

野葎

あやしの花のいかに 花のいかに 花のいかに

花のいかに

花のいかに 花のいかに 花のいかに

花

あつたしの花のいかに 花のいかに 花のいかに

田舎

あつたしの花のいかに 花のいかに 花のいかに

苗代

あつたしの花のいかに 花のいかに 花のいかに

山田苗代

あつたしの花のいかに 花のいかに 花のいかに

花のいかに

あつたしの花のいかに 花のいかに 花のいかに

しんせいのきりぎりすのうららかに
まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

まはるるのうららかに
まはるる

まはるる

とひまをみまのらむん里をささるるのた風をまらひを

月あふ歌

まこよひのあふるるあはれなればや。あふるる。あふるる。

幽栖の歌

のほろほろとくしむる。たぐらるる。あふるる。あふるる。

月

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

月

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

月

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

月

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

月

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

月

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

月

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

月

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

月

あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。あふるる。

照射

たつたのちをぬき世よりきりきりしを
まのちをきりきりしを

照射

たつたのちをぬき世よりきりきりしを
まのちをきりきりしを

夕雲

夕雲をきりきりしを
まのちをきりきりしを

夕雲をきりきりしを
まのちをきりきりしを

夕雲をきりきりしを
まのちをきりきりしを

夕雲をきりきりしを
まのちをきりきりしを

夕雲

夕雲をきりきりしを
まのちをきりきりしを

夕雲をきりきりしを
まのちをきりきりしを

夕雲

夕雲をきりきりしを
まのちをきりきりしを

夕雲をきりきりしを
まのちをきりきりしを

ちと神のまを安んずるを水たぎりのまをすちん神

山水家

。山。の。水。を。た。ぎ。る。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

うた

。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

野々々

。野。々。々。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

嶽

。嶽。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

風伝蟬

。風。伝。蟬。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

樹陰蟬

。樹。陰。蟬。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

扇

。扇。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

扇のまをすちん神のまを安んずるを水たぎりのまをすちん神

。扇。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

松のま

。松。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

細涼

。細。涼。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

月あつ涼

。月。あ。つ。涼。の。ま。を。す。ち。ん。神。の。ま。を。安。ん。ず。る。を。水。た。ぎ。り。の。ま。を。す。ち。ん。神。

松陰涼

初秋見

〇〇山梨の秋はまらぬ。君の成は秋はらくも。秋の秋の秋。

初秋虫

〇〇秋はむらさきに。秋はむらさきに。秋はむらさきに。

七夕

七夕の星は。七夕の星は。七夕の星は。七夕の星は。

鳥籠を捨

久きれて。久きれて。久きれて。久きれて。

七夕の

七夕の星は。七夕の星は。七夕の星は。七夕の星は。

七夕の

七夕の星は。七夕の星は。七夕の星は。七夕の星は。

二行

七夕の星は。七夕の星は。七夕の星は。七夕の星は。

秋の

秋の星は。秋の星は。秋の星は。秋の星は。

高

高き山は。高き山は。高き山は。高き山は。

二行

二行の星は。二行の星は。二行の星は。二行の星は。

二行

二行の星は。二行の星は。二行の星は。二行の星は。

野徑

野徑の星は。野徑の星は。野徑の星は。野徑の星は。

ふらふらと歩む人の影を
見れば 影法師の如きものぞ
一歩も歩むべしと云ふは
たゞの空言に過ぎぬ

街上の月

あやふさふさとした影法師
の如きものぞ 影法師の如きものぞ

野の月

秋の夜よ 月影を
照らす 野の月影を
照らす 野の月影を

秋の月

月影を照らす 野の月影を
照らす 野の月影を

秋の月

月影を照らす 野の月影を
照らす 野の月影を

秋の月

月影を照らす 野の月影を
照らす 野の月影を

秋の月

月影を照らす 野の月影を
照らす 野の月影を

秋の月

月影を照らす 野の月影を
照らす 野の月影を

秋の月

月影を照らす 野の月影を
照らす 野の月影を

山家集

露のこぼれに床の静けさよとてそよ風の吹くは

まはるるよのまはるる

くらやみの静けさよとてそよ風の吹くは

の静けさよ

の静けさよとてそよ風の吹くは

の静けさよ

あつたよの静けさよとてそよ風の吹くは

の静けさよ

・吉野の静けさよとてそよ風の吹くは

の静けさよ

移るよの静けさよとてそよ風の吹くは

山家集

あつたよの静けさよとてそよ風の吹くは

の静けさよ

あつたよの静けさよとてそよ風の吹くは

の静けさよ

あつたよの静けさよとてそよ風の吹くは

の静けさよ

あつたよの静けさよとてそよ風の吹くは

の静けさよ

あつたよの静けさよとてそよ風の吹くは

の静けさよ

あつたよの静けさよとてそよ風の吹くは

さびれ舞まのこころは風を志ぬきしこころ言をさす
あまのこころはゆけりしこころ

舞のま

あまのこころはゆけりしこころ言をさす
あまのこころはゆけりしこころ

秋夜

あまのこころはゆけりしこころ言をさす
あまのこころはゆけりしこころ

あまのこころ

あまのこころはゆけりしこころ言をさす
あまのこころはゆけりしこころ

あまのこころ

あまのこころはゆけりしこころ言をさす
あまのこころはゆけりしこころ

あまのこころ

あまのこころはゆけりしこころ言をさす
あまのこころはゆけりしこころ

あまのこころ

あまのこころはゆけりしこころ言をさす
あまのこころはゆけりしこころ

あまのこころ

かやれもしもまされしはけりぬ。ぬきもん毛をそわつてぬ。

新巻

新巻きさる神のまらぬあまきうたひくまにれんかむのり

新巻巻

うまのやれよあはれあつてをゆるし神よいらるあまにけり
いあつて神さしとくまのつまのよちりやーあつて神

思ひ新巻

こゝろのおほりうらなをさやけし神の本をさる神のうらさ

あつて新巻

あつてあまの半はちきさの。あつてあまのうらなをさる神のうらさ。

あつて新巻

あつてあまのうらなをさる神の本をさる神のうらさ。

あつて新巻

あつてあまのうらなをさる神の本をさる神のうらさ。
あつてあまのうらなをさる神の本をさる神のうらさ。

あつて新巻

あつてあまのうらなをさる神の本をさる神のうらさ。

あつて新巻

あつてあまのうらなをさる神の本をさる神のうらさ。

あつて新巻

あつてあまのうらなをさる神の本をさる神のうらさ。

あつて新巻

あつてあまのうらなをさる神の本をさる神のうらさ。

月之運云

しよのわつとせふの月よりけしはあつとせふのあつとせふ
きねのせふとせふたせふとせふとせふとせふとせふとせふと

三舞原の味云

のせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふと

歌云云

きねのせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふと

月云云

せふとせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふと

ほろ云云

梅のせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふと
のせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふと

運不運云

のせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふと

名云云

いふとせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふと

新世名云

ちりひちりのせふとせふとせふとせふとせふとせふと

せふとせふ

歌云

いふとせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふと

依後云

をまたせふとせふとせふとせふとせふとせふとせふと

切云

ほろろく人の心のねごとをたせたまはるるのさびのさび
うまきまふははるれまの松多きまのあまきまのさびるん
ふまきま一ま

家枕云

まろくまのさびるのまろくまのさびるのまろくまのさびるの

家琴云

まろくまのさびるのまろくまのさびるのまろくまのさびるの

家糸云

まろくまのさびるのまろくまのさびるのまろくまのさびるの

家目云

まろくまのさびるのまろくまのさびるのまろくまのさびるの

ふまきま

まろくまのさびるのまろくまのさびるのまろくまのさびるの

雑部

天

まろくまのさびるのまろくまのさびるのまろくまのさびるの

日

まろくまのさびるのまろくまのさびるのまろくまのさびるの

月

まろくまのさびるのまろくまのさびるのまろくまのさびるの

星

まろくまのさびるのまろくまのさびるのまろくまのさびるの

四時中夜

静夜のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

四時中夜

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

四時中夜

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

草

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

草

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

竹

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

竹風

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

竹久

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

竹

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

松

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

竹

静のよめる山々のしづかに静のちとたまたま

洞松

。岩まにありわしのまをうらまゆ。枝をたれぬまの松なる。

名松

。信濃のまの松をさるり。おなふあふ。海の名松を。

海松

引まほのあたまを。海の名松を。松をさるり。風をさる。

名松

と手あそびやう人あまあつれ。松をさるり。松をさる。

名松

。おきま。おきま。とらや。おきま。おきま。おきま。おきま。

松路

。松路をさるり。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。

松

ちまや。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。

松

おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。

桐

たまのま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。

松

おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。

。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。

海松

。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。おきま。

海松

Handwritten text in cursive script, oriented vertically on the right page of the notebook. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is highly stylized and difficult to decipher, but appears to be a list or series of entries. The words are written in a vertical column, with some lines starting with a small vertical tick mark. The text is written on the right page of the notebook, which is otherwise blank.



